

# みんなの議会

2015年11月  
第63号



ゆきものがかりによる

## ハロウィンイベント

### 主な内容

- ◎厚生クリニック損失助成(第3回定例会).....2ページ
- ◎地域密着多機能型総合センター  
関連予算(臨時議会).....3ページ
- ◎雪中米活用を提案 一般質問.....6ページ
- ◎懇話会開催される (長生クラブ).....9ページ



# 平成27年 第3回 定例会 9月17日

9月17日第3回定例議会  
が開かれました。

## 上程された主な議案

### ◎26年度決算認定

平成26年度一般会計及び水道事業会計の認定は、決算審査特別委員会に付託しました。

委員長に高田議員、副委員長に小峯議員を全員協議会で指名し、10月21日から26日までの日程で審査が行われました。

### ◎27年度補正予算

平成27年度予算に1億4301万円を追加し歳入歳出予算の総額を50億2757万円としました。

#### 主な内容

沼田厚生クリニック損失助成 8700万円

沼田町プレミアム商品券追加発行支援事業 815万円

マイナンバー関連費総額 883万円

コンパクトエコタウンアドバイザー業務委託料 999万円

有害鳥獣対策委員会 1318万円

道営住宅車庫天井修繕工事 253万円

道営住宅車庫天井修繕工事 253万円

### ◎教育委員の選任

現委員の日暮茂男氏の任期満了に伴い伊藤淳氏が選任されました。

### ◎公平委員の選任

現委員の齋藤義雄氏の任期満了に伴い須網一弘氏が選任されました。

## 傍聴席の生の声

町長の答弁内容が分かりづらく伝わってこない。  
幅広い世代の方が傍聴されているので、できる限りゆっくりとした口調で答弁を望みます。

80歳 男性

議会運営として、より聴き取りやすい音響方法を検討します。



## 今回の定例議会の傍聴者は、15名でした。

みなさまの傍聴を待っています。

## 議決された意見書

### ◎林業・木材産業の成長産業化に向けた施策の充実・強化を求める意見書

本道の林業・木材産業は地域経済の活性化に大きく貢献してきた。一方、地球温暖化が深刻になっているなか、森林木材が果たす役割が重要となっている。

森林整備事業及び治山事業の財源を十分かつ安定的に確保し、森林整備加速化・林業再生対策を恒久化することを要望した。

## 第5回 臨時議会 8月24日

主な内容は地域密着多機能型総合センターの実施設業務委託費、商業コミュニティ中核施設整備事業費などで、具体的数字は下記の表の通りです。

### 質疑 高田議員

厚生クリニックの建設場所について現在計画の中学校跡地の場所の変更は基本設計に入ってから可能か。事業完了時点の財政状況は。

次に計画している高齢者支援の施設の建設の担保はできているか。

### 質疑 鵜野議員

規模が縮小されれば中学校跡地にこだわる必要はないのでは。

町民との懇談をして決めたもいいのか。などの質問が出た。

### 町長答弁

最終的に構想全体が建設できるよう補助金を活用しながら努力していく。基本設計ができて具体的な説明ができるようになる

ば住民に説明したい。

財源的には厳しい状況になると思うが慎重な財政運営をしながら進めたい。

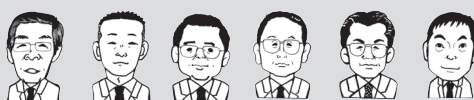
### 討論

中学校跡地に反対している町民も多くいる中で特定すべきではない。

「町民の意見を聞いて街づくりを進めるべき」「設計後に変更できないとすれば反対」の意見が出ました。

### 採決結果

賛成 6



反対 3



厚生クリニック

### 主な内容

|                     |           |
|---------------------|-----------|
| ○地域密着多機能型総合センター関連予算 | 4億1,713万円 |
| 内、厚生クリニック工事費        | 3億4,749万円 |
| ○商業コミュニティ中核施設整備事業費  | 4,429万円   |
| ○ふるさと納税応援費          | 2,459万円   |

## 第6回 臨時議会 10月26日

主な内容はふるさと納税応援費、ふるさとづくり基金、児童福祉費の補正です。具体的数字は下記の表の通りです。

### 質疑 津川議員

「児童手当の支給ミスについてどこに原因があったのか。改めて担当課の職員が同じ認識に立つことが必要ではないか。」

### 町長答弁

今後は情報の共有、確認などで再発を防ぎたい。

### 主な内容

|            |         |
|------------|---------|
| ○ふるさと納税応援費 | 5,275万円 |
| ○ふるさとづくり基金 | 9,030万円 |
| ○児童福祉費     | 213万円   |



ふるさと納税応援品

## 町長への一般質問

### 問 再生アスファルトで農道の舗装を

答 現状事業化はむずかしい



誠 原 議員 長

**問** 農業者が利用する農道は土地改良区が管理しています。

平成19年以前は農道の傷みにより雨が降ると水がたまり車が走れない状況でしたが、「多面的機能支払制度」や、「中山間共同取組事業」などで集落単位で砂利敷を行い、今はかなり良くなっています。

しかし中山間の急傾斜地帯、河川に近い農道は降雨のたびに砂利が流れてしまい作業に困難をきたしています。

このような傾斜地の農道の舗装化ができないか。府県の農道を見ると舗装化が

かなり進んでいる様ですが、管内の産廃施設にはコンクリートやアスファルトが大量に集積されています。北海道は再生リサイクル率が府県に比べ低い現状です。農道の舗装と再生アスファルトの利用をマッチングした事業が出来ないか聞きたい。



急傾斜の農道



農道は、町の管理ではありません。

現状の「多面的機能支払制度」、「中山間事業」の中で農業の生産活動の維持活動を図るため農道の軽微な補修、砂利敷などが制度上認められています。

農道の舗装など施設の高度化を図るものは事業対象外ですので現状事業化は難しいです。

### 問 今後の事業の財源をどのように考えるか

答 適切な範囲で有利な起債を考える



之 範 議員 鵜 野

**問** 町長は公約である「今住んでいる皆さんを大切にすること」を目標に4年間、町政運営に取り組んできました。

その事により、確かに町民サービスも増えていますがこれは財政にゆとりのある町だから出来る事だと考えます。

今後は厚生クリニックを中心とした「コンパクトエコタウン構想」により、箱物による町民サービスが始まります。

更には、地方創生事業により沼田町を「今住んでいない人も大切に」魅力ある町にして行かなければなりません。

そうしたことから、たくさんの方の事業をこなす作業と事業費が必要になってきます。今後を考えた時「スクラップアンドビルド」が必要と考える。

町民サービスの低下につながるように、効率の良い事業運営と財源をどのように考えていくのか。



サービスが拡充した事で生活のし易くなった面では事業はふえています。

毎年、住民ニーズと今後

の政策を含めて検証を行ってまいりました。

今後は、地方創生に社会福祉の保障制度の増加も予想されます。さらには住民生活に直結する事業「高齢者福祉」「子育て支援」「健康維持増進」などと農業、商業の持続的発展と移住定住などの政策もやって行きたい。

そうした中で事業の優先度、緊急性を考慮して事業の選択と整理統合を図って行く事が必要と考えます。財源の確保は将来の負担を考え努力して行きたい。



子育て住宅



## 問 厚生クリニックの損失補填が多すぎるのでは

答 医師体制の差により発生したものである



高田 勲  
議員

税でいくらかでも措置される見込みがあるのか。



町民懇談会で提示した損失額の試算値は、一定の条件のもと

**問** 昨年の4月に沼田厚生病院が無床の診療所となり、平成26年度中の決算が出されました。

クリニックとしての初年度は8782万円の損失が計上され、町は一般財源で全額を補填します。

無床診療所化に伴う町民懇談会では、人口が3000人程度で、5000万円ほどの損失額になるとの試算値が町民の皆様に提示されました。この差はなぜ発生したのか説明を聞きたい。また今後、厚生連と協議をしながら進めなければいけません、どのように収支改善を計っていくつもりなのか。

町が一般財源で損失補填した金額は、国からの交付



特定検診のようす

医師の確保が難しくなることから、医師数を1.5人で損失額を試算していますが、この年度は2人体制で運営されており、給与費用が主

な要因です。

現在厚生連と、保健予防活動の充実を協議中です。

人間ドックや看護師による特定保健指導などで、収支の改善を計っていきたいと考えています。

## 問 コンサルタント会社の効果は

答 事業を進めるうえで必要



久保 元宏  
議員

**問** コンパクト・エコ・タウン構想の策定を進めるなかで、コンサルタン

ト会社のスタジオ・エコーに現在まで2788万円が支払われています。沼田町としては多額の投資であり、単発の事業実施にとどまらず、行政知識として蓄積されなければなりません。

今までスタジオ・エコーに投資した約3000万円はどのようなに使われたのか。

町長は一連の事業をどう

無床診療所に対する国からの一般交付税の措置はありません。

3月に配分される特別交付税に、特殊財政需要額として交付申請をしています。

分析し検証したのか。

エコ・タウン構想の策定に当たり、スタジオ・エコーに与えたものは何なのか。

今後スタジオ・エコーをどのように活用して行くのか。



これだけの大型事業を計画するに当たり、職員だけでは難しいとの判断からスタジオ・エコーに事業を発注しました。

内閣府の地域活性化のモデルケースに選ばれ、結果的に地域再生戦略交付金が交付決定されました。ごく少数の町にしか交付されない補助金であり、ここに至るまでの住民を交えての計

画策定やアドバイス、情報収集などが主な仕事です。

行政では出来なかったり気づかない部分のアドバイスをいただきフォローしていただきました。

戦略交付金は省庁の補助メニューに無い隙間をうめるものです。2億1600万円の交付決定は、今後の事業実施に弾みがつきます。多くの住民から得られた情報を、今後の事業実施に活かすためにも、スタジオ・エコーには関わっていただきたいと考えています。



これから塾

## 問 地方創生に雪中米の活用を提案する

答 関係団体と協議して進めたい



杉本 邦雄  
議員

**問** 地方創生は、将来生き残れる自治体としての仕事づくり、人の流れ、若い世代の定着です。

これは官民一体となつて長期的な計画を取り組んでいかなければなりません。

その中に特色ある「雪中米」を活かして民間の協力で農業の発展を考えた事業展開を進めてはどうか。

ふるさと納税による事業化の取り組みで、町・農協・商工会の三者で事業本部を立ち上げ、町の活性化を展開してはどうか。

さらにはこの事業の中に農業後継者の婚活を取り入れ農協支援を受けてはどうか。



地方創生で色んな計画をしています



20年を迎えた雪中米

すが、農協・商工会・観光協会が今こそ知恵を出し合っていかなければと考えます。

20年を迎えた「雪中米」のブランド化と、「攻める魅力ある農業づくり」が町の基本的な考えです。

今後はJ Aと農業者が十分に議論を深め、協議していきたいと考えます。

ふるさと納税については

前年度より1600万円増で、雪中米のオーダーは360俵/60kg出ています。今後、ますます増えると予想しています。

婚活は今までと違ったサポートセンターなりアドバイザーを使い検討して行きます。

予想しています。

## 杉本議員のその他の質問

問 化石を町活性化の事業にしては

答 地域資源の活用を検討する

## 問 介護職員の待遇改善を国・道に求めよ

答 現状を理解した中で検討したい



橋場 守  
議員

**問**

介護職員を見ると、養護老人ホーム和風園では27人働いているが、21人が臨時職員での構成です。

このように給料の安い待遇の悪い臨時の職員の皆さんの努力によって施設が支えられています。

特別養護老人ホーム旭寿園でも同様です。

臨時職員の給料は年俸に加えて資格手当、勤務年数による勤務手当があるが、正職員の給料・手当に比べると大きな格差があります。この格差を無くすために、上京したり、道に出向く際に町長としてその立場に立って働きかけるべきと思う。沼田だけの問題ではなく、管内の首長の会議の中でも発言し国の制度の在りかたを変えていくべきです。町長の考えを聞きたい。

## 橋場議員のその他の質問

問 診療所建設は化石館の前では

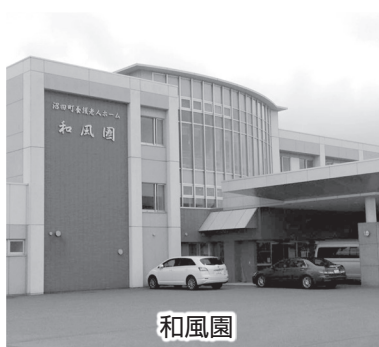
答 旧中学校跡地で計画を進めたい

問 制度の改悪で介護事業はできるのか

答 町として万全の態勢をとりたい

問 高齢者住宅の増設は考えているか

答 福祉施設としての住宅を考えている



和風園

臨時職員の待遇は年々改善されていますが、介護保険の中での運営ですので全体の会計も考慮しなければなりません。現状の制度では私共の話で解決する問題ではありませんので内容を十分に理解し検討したい。



臨時職員の待遇は年々改善されていますが、介護保険の中での運営ですので全体の会計も考慮しなければなりません。



## 問 コンパクトタウンの完成イメージは

答 商業施設と多機能センターを計画



小 峯 聡  
議員

**問** コンパクトエコタウンが10年程度の期間を想定しているということですが、コンパクトエコタウンの一番の重要な所は必要な施設が周辺にあるというのが重要なところですか。

任期中にコンパクトエコタウンの一部しかできません。

その後ほかの部分がないと重要な部分がなくなってしまうと私は思います。町長の今期の任期終了までにどの程度、建物を進めていきたいのか聞きたい。

**住宅の問題も含めて解決しなければならぬ問題は沢山あります。町の財政状況、起債**



Aコープ沼田店

の償還など、それぞれの状況を判断していく必要があると思います。3年間にここまでと断言はできません。今回の再生計画の中で、商業施設と多機能センターを計画しています。内閣府は5年間の計画として認定しています。内閣府、各関係省庁と連携を取りながら計画を推進したいと考えます。

## キャリアパス

職業経験を積むことによって道を切り拓くという意味があります。

事業所・将来の経営展望に見合った介護人材を組織的・体系的に示し、ふさわしい戦力を確保すること、また、職員に対しては明確な目標を与え、公平な評価を行うことにより、人材の活性化を図ることを目的とします。

## 小峯議員のその他の質問

**問** 商業施設においての町のかかわりは

**答** 今後も出資、役員などいろいろな面で農協、商工会などと三者で協議をしながら進めたい。

## 問 介護職員不足の確保対策は

答 人材確保に準備したい



大 沼 恒 雄  
議員

**問** 平成26年6月に「医療介護総合確保推進法」が成立し、新総合事業を含め平成30年には「地域包括ケアシステム」を構築し実施しなければならぬ。

生活支援体制整備事業が町に移行され社協、NPO、地域のボランティア、住民相互の協力が必要とされているが、拠点となる地域包括支援センターの重要性は増大すると思われる。このセンターの機能を強化し「包括的支援事業」を進めるためには人員の確保が必要になる。

今回の介護報酬改定ではキャリアパス要件と職場環境要件を満たすと職員にかかる加算率が引き上げになっている。

今後の事業の進め方と職員の処遇について尋ねたい。



新総合事業は社会福祉協議会での協議が一番重要と考えている。

町が一丸となって、支える体制づくりが必要と考えている。

介護予防策として調査を実施して生きがいと健康づくりを目的に参加しやすい計画にしていきたいと思う。介護保険運営協議会とも議論を踏まえて進めていきたい。

施設の運営も含めて、将来、介護職員の不足は懸念されるので、そのための準備と協議をしていきたい。



旭寿園夏まつり

# 地方創生調査特別委員会中間報告

委員長 高田議員 副委員長 鶴野議員

昨年の5月に日本創成会議が発表した「消滅可能性都市」は、地方を震撼させた。今のままでは、小規模な自治体ほど少子化が進み高齢化が加速することは間違いない事実であり、自治体の存続そのものが危惧される。

沼田町は炭鉱が栄えた時代には約2万人の人口を有したが、昭和40年代の閉山とともに人口減少が進み現在に至っている。

その間、自衛隊や行刑施設の誘致、起業活動や一般企業の誘致に取り組み一定の成果は、あがっているものの、決定的な歯止めにはなっていないのが現状である。

沼田町基幹産業は稲作中心の農業であるが、大規模化と省力化が進み人口減少の要因となったことは事実である。

しかし地方創生の考え方を鑑みたとき、農業で「しごと」をつくり、「ひと」を増やし「まち」を繁栄させることが沼田町を将来にわたって存続させられる手

段であると考ええる。

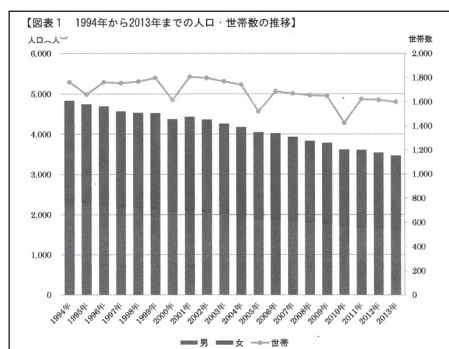
外部から「しごと」を持つて来ることも重要であるが、内部で生み出した「しごと」はその必然性から「ひと」を呼び集め、「まち」を創っていく力になると考える。

本特別委員会は改選直後の5月に設置され、地方創生と総合戦略について議論を重ねて来た。

人口減少問題に特効薬は無く、官民一体となつての地道な施策積み重ねが重要である。

今後他自治体の事例を学び、施策の研究を継続することとする。

以下の意見を付し、中間報告とする。



人口と世帯数の推移

## 1. 農業における通年雇用の確立

更なる農業の大規模化が進み就農人口の減少が予測されるなか、労働集約的な高収益作物の展開は仕事量を確保するうえで重要である。

農業法人への支援や6次産業へのアプローチを進めたうえで、複数の業種を組み合わせることで通年雇用を生み出す「沼田型ワーキング・パッケージ」の確立を目指すべきである。

## 2. 農業新規参入推進事業の充実

既存の施策ではあるが、就農人口を確保するうえで重要である。新規就農希望者への技術指導や経営指導、また就農時における資金の問題などこれらを総括して対応する受け入れ組織が必要である。

## 3. 町外からの通勤者の町内在住化

沼田の企業などに町外から通勤している人が多いことから、子育て住宅や単身者住宅の整備、また優れた子育て支援策をPRし町内在住化をはかるべきである。

## 4. 交流人口対策

沼田町には自然と歴史資源が沢山ある。それらを活かし他町村と連携をした、観光による交流人口対策が必要である。



## 北空知議会議長連絡協議会 中央要望実行団

8月5日より8月7日の日程で北空知議会議長連絡協議会中央要望が実施されました。1市4町から2名ずつ選出され沼田町からは、長原議員と大沼議員が参加、要望しました。



実行団の皆さん

一日目は全農パールライス株式会社を訪問し、お米の輸出について研修しました。

二日目の午前中は、渡辺孝一衆議院議員、稲津久衆議院議員に要望書を出しました。

午後からは衆議院議員会館で厚労省は地域医療、農水省は農業振興について研修を受けました。

この後、質疑、要望、意見交換をしました。

この他、橋本聖子、伊達忠一、長谷川岳、小川勝也、徳永エリ、紙智子各参議院議員に要望書を提出しました。

### 厚労省への要望

地域医療の確保と自治体病院等の経営健全化支援として

1. 医師等の確保対策の推進
2. 経営健全化のための財政支援
3. 夜間・休日の救急患者の受け入れ体制の確保

### 農水省への要望

農業の振興及び農業農村の整備として

1. 農業基盤整備事業に係る予算の確保
2. TPP等の国際貿易交渉に対する対応
3. 食料供給基盤強化特別対策事業の継続
4. 新規就農者の円滑な確保・育成に向けた支援策の確立

## 沼田長生クラブとの懇話会

10月19日にゆめつくるで長生クラブ（野道夫会長）の皆様と町議会議員との懇話会が開催されました。

議会活動報告として議員の紹介、総務民教常任委員会、産建福祉常任委員会、議会運営委員会、特別委員会、一部事務組合議会の組織構成説明、本議会、臨時議会、委員会、議員セミナーなどの活動報告をしました。

今回は、長生クラブの皆様から事前に質問を提出していただき議会側が答える方法にしました。

20項目の質問にたいし高田副議長、久保委員長、長原委員長が主に答えました。

次に、意見を拝聴させていただきました。

渡辺議長は、議会基本条例の考え方を説明、貴重な意見を聞かせていただき、大事なことは行政に反映させたいとして結びました。

また、長生クラブからは次回はグループ制にして各議員と討論をしたいとの意見がありました。

長生クラブの皆様、ありがとうございました。



懇話会のようす



## 総務民教常任委員会 道内調査報告

調査目的：『空き家』対策

8月11日～12日

礼文町・苫前町

今年5月に「空家対策の推進に関する特別措置法」が施行されました。

空き家問題は人口減少という時代背景から生じた過剩現象と、住まなくなった家の管理放棄によるものです。

全国での空き家率は13・5%、北海道では14・1%と今後、急増する傾向にあります。

沼田町においても空き家を増やさないためにも委員会で調査をしました。

「空き家対策」で必要なことは、空き家の所有者が誰であるかを知ること、次は危険空き家の行政執行をしたとき費用の回収出来ること、3番目は私有財産である危険空き家を立入調査出来ることでした。

今回の「空家対策特別措置法」により、それらが出て来るようになりました。

本委員会では、長期的な町づくり計画の中に空き家を、公費を投入する必要も含む危険かつ景観にそぐわない「特定空き家」と、活用できる「地域資源」に分

けて、その対策を確立する必要がありますと考えています。今回は「礼文町」、「苫前町」の特色のある空き家条例と取り組みを視察して参りました。

### 礼 文 町

8月11日

平成23年に空き家の飛散・倒壊にいたった事例を教訓に平成25年に条例を制定し、役場内に対策検討委員会を設置し、細部にわたってマニュアル化した。

特に優れているのは条例に空き家の寄附を規定し、それを町営住宅にして、1ターンの漁業就労者向けとして活用する政策である。

実績もすでに2件あり、我が町も研究する価値がある。

### 苫 前 町

8月12日

海辺の風の強い町ならではの、空き家の廃材が飛散する事例が頻繁に発生し、その度に役場の職員がブルー・シートなどで応急処置に走り回る苦労が日常化していた。

このことなどへの切実な対策として、平成24年に行政代執行にも結び付く条例を制定した。

さらに、町内業者による解体工事に助成する事業を5年間限定で行うなど、アイデアを出し続ける姿勢が参考になった。



危険な空家





## 産建福祉常任委員会 道内調査報告

調査目的：福祉施設の在り方

10月13日～14日

苫小牧市・登別市・伊達市・豊浦町

### 苫小牧市社会福祉協議会

10月13日

ここでは主に介護いきいきポイント制度、給食サービスなどについて聞いてきました。

いきいきポイントは施設でボランティア活動するとポイントがもらえる制度。年間50ポイントが限度として1ポイント100円で10ポイントから交換できます。

給食サービスは平成3年にモデル事業から始まって今では9施設と仕出し組合から320名に配食しています。

沼田町の高齢者率が40%を超え、今後さらに増加していくと予想されます。沼田町でもコンパクトエコタウン構想が進められていくうえで、今後介護職員の確保が大きな問題となっています。

国の介護制度の改正により在宅介護、予防介護など介護サービスも多様化しています。

職員確保対策、施設運営など視察を通して調査してきました。

### 登別市 緑風園

10月13日

昭和58年には50床の施設で始まり、現在は100床の施設となっています。

職員の確保はできているが、これからは難しい。人材の確保が課題です。

看取り介護もしていて家族の泊まる部屋も用意しています。



### 伊達市 プライムヘルシータウン湘南

10月14日

職員の確保育成が充実している所です。社会福祉法人幸清会のグループの中の一つです。法人内での研修が年間26回、施設内の研修が約55回行われています。職員指導担当者を設置してメンタルヘルスも重視しています。



10月14日

湘南と同じ幸清会の中の一つです。豊浦町に在って避難所にもなっています。職員はすぐそばの法人所有の住宅や、町営住宅に住んでいて人口確保にも貢献しています。職員のための保育所を設置して育児をしながら働ける環境づくりにも力を入れています。

### 豊浦町 幸豊園

## 退任議員との親睦会

9月2日

親睦会は今年で39回目を迎え幌新温泉ほたる館にて開催されました。金平町長をはじめ28名の参加でした。

今回、役員の改選があり吉田好宏会長にかわり山木一男氏が新会長になりました。

会長挨拶の中で「親睦会をつくり、継続して実施し

ている町は少なく、とても意義のある事だ」と言われておりました。

今後とも、先輩議員として町、議会に対しての御指導を頂きたいとおもいます。



## 子育て住宅内覧会

10月19日

小学校北側に建設されていた子育て住宅2棟4戸が完成しました。

議員による内覧会をおこないました。建設会社の（株）ハスコムより説明を受けながら内部を見せて頂きました。

オール電化住宅で子育てのための収納など機能的な間取り、防音にも配慮したものでした。

子育て世代の皆様の入居をお待ちしています。



## あとがき

巷の話を聞くと今年も昨年に続きお米が豊作とのことです。

畑の作物も出来がいいそうです。しかし、山の木の実どんぐり、やまぶどうは不作だそうです。そのためか今年はクマの出没が相次いでいます。シカやあらいくまも増え続けています。

人口減少に合わせたように野生動物が少しづつ増えています。

農作物の被害をふせぐには野生動物の数を減らすしか手立てはありません。

個々の対策ではなく、地域全体での取り組みを今以上に考えることが大事だと思います。

### 広報特別委員

大沼恒雄 高田 勲  
小峯 聡 長原 誠  
鵜野範之

## みんなの広場

### 沼田町で住んで感じたこと



地域おこし協力隊 関 元 千 恵

私は地域おこし協力隊として大阪から来ました。北海道に住むと決め、仕事を探しているときに「沼田町地域おこし協力隊」の求人を見つけ応募しました。

今は観光協会で各行事や物産展などに出演し、沼田町の特産品の販売を行ったりしています。

沼田町の事を全く何も知らずにやってまいりました。実際に沼田町に住んでみて、良い事、悪い事、驚く事色々ありました。その中でも特に凄いなと感じたことは星の綺麗さと野菜の美味しさとあんどん祭りに懸ける熱さと冬の生活の大変さです。

こんな私に沼田町の皆さまは声をかけてくださり、仲間に入れてくださり、大阪に住んでいたなら知らないで終わるような事をたくさん教えてくださいました。私は幸せです。

私の他に4名協力隊として沼田町に来ております。気軽に声を掛けていただけたらと嬉しいです。

沼田町に来たのも何かの縁です。よろしくお願い致します。